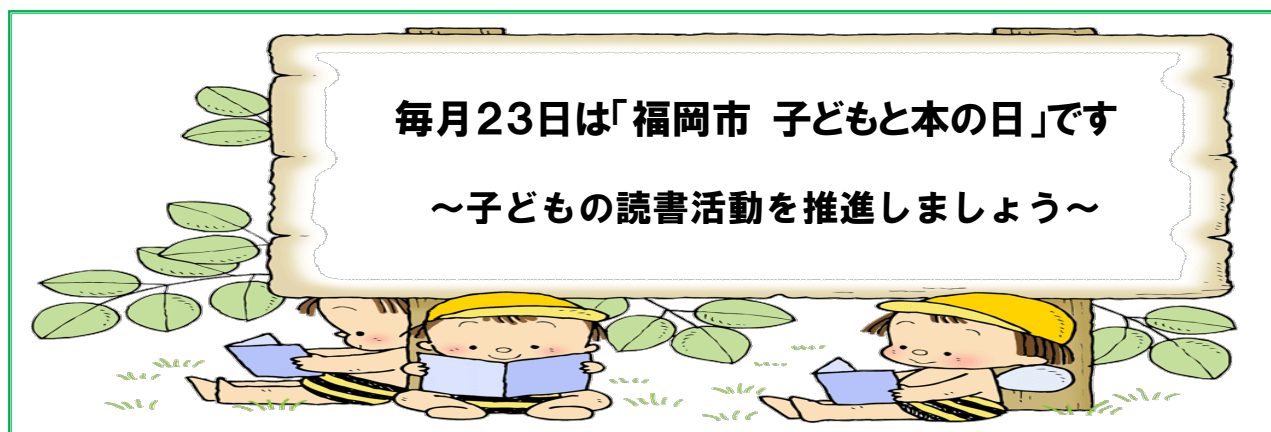




夏休みは、福岡市の図書館へ

福岡市には、総合図書館を本館として、市内には11の分館（東・和白・博多・博多南・南・城南・早良・早良南・西・西部・中央：現在休館中）があります。そして、各館では、多くの方が、本と出会いや読書を楽しんでいます。

また子ども達のために、総合図書館内には『こども図書館』を開館し、各分館には、絵本や児童書のコーナーを設け、子どもと本の素敵な出会いの場を準備しています。特に7月と8月は、子ども達の夏休みに合わせて、さまざまな子ども向けのイベントや展示を計画しています。

7月1日より総合図書館のホームページには特設ページを設け、市内の図書館における夏休み子ども向け企画の案内を公開しています。

この夏休みは、お近くの図書館に足を運び、子どもの知的好奇心を揺さぶるとともに、お子さんと有意義な時間を共有してはいかがでしょうか。

<福岡市総合図書館の夏休みの展示とイベント>

- 展 示① : 夏休み！自由研究おたすけ本棚
展 示② : 読書感想文、書いてみませんか

イベント： 夏休みチャレンジ 世界編

7月26日（日） 夏の1日おはなし会

8月 8日（水） がいこくごのおはなし会

8月19日（水） 開館30周年ミニバックヤードツアー

※当日、受付で抽選があります。詳しくは、総合図書館HPをご覧ください

（総合図書館HP→イベント・トピック→開館30周年ミニバックヤードツアー）



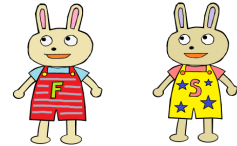
<総合図書館 HP>

総合図書館トップページ アドレス <https://toshokan.city.fukuoka.lg.jp/>

電子図書館

令和5年3月に文部科学省から出された「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」では、基本方針として、

- Ⅰ 不読率の低減
- Ⅱ 多様な子どもたちの読書機会の確保
- Ⅲ デジタル社会に対応した読書環境の整備
- Ⅳ 子どもの視点に立った読書活動の推進



が挙げられ、全国の公立図書館では、その取り組みの一つとして、電子書籍及び電子図書館の導入・活用が進められているようです。

福岡市総合図書館においても、1万冊以上の電子書籍を揃えるとともに、「マンガのノベライト」「角川ホラー文庫人気シリーズ」「いきものしゃしんえほん」「やなせたかしの絵本」「マンガで楽しく学べるシリーズ」の計5つのカテゴリーでは、複数人が同時にアクセスできる『読み放題シリーズ』をそろえています。

福岡市の図書館貸出カードをお持ちであれば、福岡市総合図書館 HP にて、パスワード設定を行った後に、ご自分のスマホ等で、すぐに読めるようになります。

また、図書館の貸出カードについても、スマホ等から、「ふくおかサポート」にアクセスすれば、図書館デジタルカードを発行することができますので、ぜひ、ご活用ください。

図書館で『TRPGをやってみる』（第11回） 8月23日 日曜日 開催

TRPG とは、テーブルトーク・ロールプレイングゲームの略で、ゲーム機等のコンピュータを使わずに、紙やペン、サイコロなどの道具を用いて、参加者の会話と専用のルールブックに記載されたルールに従って遊ぶ対話型のゲームです。

福岡市総合図書館では、中学・高校生を対象としたイベントを定期的で開催しています。今回は、8月23日（日）の開催です。興味のある中学生や高校生の皆さんは、参加してみませんか。

※ 詳しくは総合図書館のホームページをご覧ください。

市内の小・中・特別支援学校では、7月21日（火）に1学期終業式や前期前半を終え、次回登校日の8月26日（水）までの間、長い夏休みとなりました。

子ども達にとって、待ちに待った夏休み。夏休み期間中、子ども達には、楽しく元気に過ごして欲しいものです。また、この長い休みを利用して、少し長い読みごたえのある本の読書に挑戦したり、図鑑を使って身の回りの自然を調べたりして、読書活動の幅を広げつつ、大きく成長してくれることを願っています。

<須藤>

...



8月のことと人

8月1日 水の日

国土庁（現：国土交通省）が1977年に制定。日付は、年間で最も水を使う月の最初の日を「水の日」とした。

また、「水の日」の8月1日から7日までの1週間、「水の週間」とし、限りある水資源の大切さを考えてもらい、節水を呼びかけている。

8月11日 山の日

「国民の祝日」の一つ。2014年に制定され、2016年に施行された改正祝日法により新設された。祝日「海の日」が制定されたことにより、「山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する」ことを趣旨として制定された。8月11日という日付に特に意味はなく、山に関する特別な出来事などが由来ではない。

パメラ・トラバース

(1899.8.9~1996.4.23)

オーストラリア生まれ。イギリスの児童文学作家、女優。1924年、25歳の時にイギリスへ移住し詩人としてデビューを果たしました。その後は、児童向けに数多くの小説や詩を発表しました。1934年発表の『風にのってきたメアリー・ポピンズ』等、ナニー（子守兼家庭教師）であるメアリー・ポピンズの物語が有名です。

三好 達治

(1900.8.23~1964.4.5)

大阪府生まれ。詩人、翻訳家、文芸評論家。フランス近代詩と東洋の伝統詩の手法をそれぞれに取り入れ、現代詩における叙情性を知的かつ純粹に表現し独自の世界を開きました。また、『大阿蘇』など、風景の描写や叙情的な表現に優れた多くの作品が小・中・高校の国語教科書に採録されています。

宮沢 賢治

(1896.8.27~1933.9.21)

岩手県生まれ。詩人、童話作家。仏教信仰と農民生活に根ざした創作活動をおこないました。作品は生前、詩壇の中では高く評価する者もありましたが、手県で教師・農業指導者・技師としての活動を続けていたため、一般には無名に近い存在でした。没後、草野心平らの尽力により作品群が広く知られるようになりました。

モーリス・メーテルリンク

(1862.8.29~1949.5.6)

ベルギー生まれ。詩人、劇作家、随筆家。日本でも有名な『青い鳥』のお話は、フランスにある新聞社からクリスマス用の話を依頼されて、1905年に草稿が書かれました。その後の改訂を経て、1908年9月30日にモスクワ芸術座で初演されました。日本では1920年に有楽座の民衆座第1回公演で初演されています。

図書館員のひみつの本棚 第243回

今月は、平和について考える本を紹介します。

『聞かせて、おじいちゃん 原爆の語り部・森政忠雄さんの決意』
横田 明子／著, 山田 朗／監修 国土社 2021年 ¥1,500(税別)

<お勧め年齢>

乳幼児☆☆☆ 小低学年☆☆☆ 小中学年☆☆☆ 小高学年★★★★ 中学生★★★★

高校★★★★ 一般★★★★

(★が多い年齢の子どもにお勧めです。)

<本の紹介>

小学6年生の時に広島で被爆した森政忠雄さんは、あんなに恐ろしくてつらいことは口にしたくない、早く忘れたい、という気持ちが強く、誰とも当時の話をしていませんでした。でも、59年後、小学5年生のお孫さんに、自由研究として原爆のことを調べたいから話を聞かせてほしいと頼まれ、自分の被爆体験を話します。それをきっかけに原爆の語り部となって活動するようになった森政さんのことが描かれたノンフィクションです。

<子どもに手渡す時のポイント>

森政さんをはじめとする語り部の方々が語る被爆体験は、重く、悲惨なものですが、だからこそ平和への強い思いがあり、その思いに深く共感できます。小さいお子さんには不向きですが、小学6年生くらいから大人まで、幅広い年齢の方々の心を打つ本だと思います。

修学旅行で長崎や広島に行く学校でしたら、その事前学習で読むのも良いのではないのでしょうか。森政さんの語る内容として、日本が戦争に突き進んでいった経緯や、原爆が落とされた経緯なども書かれているため、深い学びにつながるのではないかと思います。



このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店に置いてあります。ぜひ手にとってみてください。